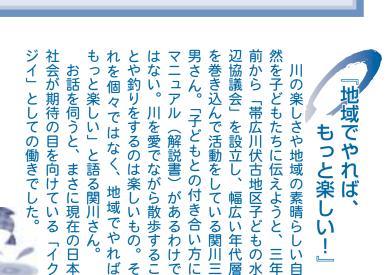
「イクライ」川辺の学習を通して 6 325320 国わ

たいけれど تلے う関わったらいいか分 育児に協力し からないという男性をちが多い中、 自 分白 ながら、子どもたちや地域に貢献する働きをしている 今回は、 そのよう *、*い「イクジイ」たちがいます。 な「イクジイ」の一人、「帯広川伏古地区子どもの水辺 協議会」の会長関川三男さんにお話を伺いました。





〈サケ稚魚放流〉

の体験を 通して学ぶ

が毎年、同協議会の指導の下で川 校と幼稚園の子どもたち約200人 そうすると、他の生き物の痛みが分 るとき、食べるということの意味や で感じ、学ぶことになります。 物がなくなる、という大自然の循環 汚すと自然を破壊して、自身の食べ にもつながります。さらに川の水を かるようになり、それはいじめ防止 他の命の大切さについて教えます。 る」ということで、釣った魚を食べ を第一に教える」。それとともに、 い。だからルールを守るということ 自然は怖いもの。楽しいけれど危な ンチの水があれば死ぬ危険がある。 の体験学習をしています「深さ20セ 丁目の帯広川。そこで、校区の小学 いる場所は、帯広市西二十一条南2 にも及び、子どもたちは広範な学習 「自然と向き合うと食育につなが 関川さんたちメンバーが活動して 頭だけでなく、体験を通して肌 辺

そ

及効果についても熱く語ります。 で安心につながると、この活動の波 交流があるので町内が明るく、安全 す。「うちの町内会はきれい」と関川 いをした人はゴミを捨てなくなりま 河原のゴミ拾いをしますが、ゴミ拾 から子どもたちは地域の大人たちと さんは胸を張ります。その上、日頃 そして、魚釣りをしたときなどは

なっています。 り、それが地域に貢献する活動と もたちや地域の人々との関わりがあ 撮影して、水の透明度を調べたりし 釣りに出掛け、また、水面の写真を いて1分でニジマスが釣れるところ が関係団体などを巻き込みながら楽 さんたちグループのようにそれぞれ なく、さまざまなものがあり、 でやっていることの延長線上に子ど ています。このような自分が楽しん 素晴らしいこと」と、夏場は毎朝、 に住んでいるが、これはぜいたくで しむことが秘訣と言えそうです。 「イクジイ」としての活動に限定は 関川さんは釣りが大好きで、「歩 得意とする分野で!」 クジイ」は 関川



〈川流れの様子〉